

設備女子会の活動状況について

一般社団法人建築設備技術者協会 設備女子会 会長

徳弘建築設計事務所

とくひろ ようこ
徳弘 洋子

1. はじめに

設備女子会は、建築設備士の登録機関である一般社団法人建築設備技術者協会を母体として、2012年11月18日「建築設備士の日」に発足しました。5年を経て登録者数は2017年11月末で600名を超え、建築設備業界での女性たちのつながりが網の目のように広がっています。

講演会や見学会、交流会で女性技術者同士の「リアル交流」による情報交換を行う一方、ホームページやマスコミでの情報提供が設備女子会ならびに建築設備に関する広報の役割を果たしています。特に地方においてはその意義は大きく、今まで女性が少ない会社で悩んでいる方への励ましや、地域の大学との連携のきっかけになるなどの新たな効果も出てきています。

本稿では、設備女子会の発足経緯や活動状況を紹介し、建設マネジメント分野の皆さまから建築設備士ならびに女性技術者へのさらなるご理解とご支援を賜りたいと存じます。

2. 発足経緯

発足のきっかけは、ある男性理事の呼びかけでした。設備業界にも元気に働く女性が増えてきているが、働き方や生き方について悩みもあるよう

に見える。女性の活動を支援してより一層活躍の場を広げてもらい、ちょっと元気のない建築設備業界全体を活性化したい。職能団体である当協会だからこそ横断的にできる事業として、女性設備技術者同士の情報交換・発信の場となる「設備女子会」を立ち上げることとなりました。

発足時、そもそも設備業界に女性は少なく、しかも協会正会員（正会員1種は建築設備士もしくは設備設計一級建築士、正会員2種は空気調和衛生工学会設備士が資格条件）となると極めて少数です。後には、隠れ設備女子が意外にも多くいることがわかりますが、当初は協会内委員の幹事4名と運営委員5名、これに事務局を加え、「女子会会則」、「運営規定」を設けて広報委員会下に「設備女子会」が発足しました。

3. 会員資格と会費

「設備女子会」を立ち上げるにあたってまず議論したことは、会員資格と会費の問題です。「ドボジョ（土木技術者女性の会）」がすでに活発に活動しており、敬意を表するとともに大いに参考にさせていただきましたが、「設備女子会」会員は当協会会員に限定せずに、設備や環境に興味がある女性であればどなたでも入会でき、会費は無料としました。これは、将来「建築設備士」等の資格取得を目指す女性への啓発、社会的認知度の

向上のために必要と考え、広く門戸を開き活動を支援していくためです（当協会の倫理綱領への賛同は必要です）。

4. 設備女子会のねらい

女性設備技術者がより一層活躍の場を広げ、これまでの風習にとらわれない感性や高いポテンシャルを生かして新しい提言や試みを生み出すことに期待し、励まし刺激し合う場を提供します。

『設備女子会の目的』

- ・所属や年齢にとらわれない女性設備技術者同士の情報交換の場を設け親睦をはかる
- ・魅力ある働きやすい業界の環境づくり
- ・設備技術者を目指す女性へのアドバイス
- ・建築設備業界の社会的認知度・評価の向上（建築設備技術者の地位向上）
- ・業界全体の活性化・イメージアップへ向けて、前向きなネットワークからの発信をし、業界入職者・建築設備士などの設備技術者を増やす

5. 活動状況

設備女子会の活動のポイントは3つあります。

まずは、「ネットワークづくり」。縦横のつながりと、何でも聞ける場をつくること。これは同時にスキルアップの場でもあります。次に、「ロールモデルの発信」。これから設備女子を目指す女性

に対する発信の場づくりとして、普通に就職して普通に頑張っている先輩の働く姿を見せること。そして、「意見の集約と発信」。新しい提言や新しい試みの実践をして双方向でコミュニケーションする場を設け、訪問者・来場者を増やすことです。

具体的には以下の実績を積み上げており、今後とも継続していきます。

① ネットワークづくりとスキルアップ【交流会・見学会・勉強会開催】

東京本部では見学会・講演会を年1回ずつ、交流会を年3回開催します。全国各地域は協会各支部と各支部設備女子会（8支部2支所）の運営に任されており、それぞれ見学会や講演会・交流会を実施しています（表－1、写真－1、2）。

② ロールモデル発信【メディア掲載など】

日刊建設通信新聞の「設備女子会からのメッセージ」コラム枠に2013年より月2回程度寄稿、現在も連載中ですすでに88回となります（図－1）。また、理工系学生の入職支援となる「夏のリコチャレ2017」への参加や、2017年度全国10都市での建設産業女性活躍セミナーにも出席しています。

③ 意見の集約と発信【アンケート調査・報告】

2014年のプレーストーミングをベースに「設備女子の働き方に関するアンケート調査」を運営委員会主体で2015年に実施し、調査結果報告書を作成しました。成果物は、パンフレット版、冊子版があり、ホームページにも全文掲載していま



写真－1 交流会実施風景「わたしの仕事」紹介シーン（2013年6月26日実施）



写真－2 赤司泰義副会長（東京大学大学院教授）講演会（2017年2月6日実施）

表－１ 本部および全国各支部女子会の活動実績

本支部名	発足	交流会	実施済み・実施予定の見学会・講演会など（敬称略）
東京本部 設備女子会	2012/11/18	14 回実施 年 3 回予定	【見学会】 新菱冷熱工業（株）本社ビル ダイキンソリューションプラザ「フーハ東京」 田町駅東口再開発エリア「スマートネットワーク」 大手町フィナンシャルシティグランキューブ、3 × 3Lab Future TOTO テクニカルセンター東京 【講演会】 田辺新一早稲田大学教授「これからの建築設備 一省エネと快適性」 野部達夫工学院大学教授「建築設備を文化にしよう」 赤司泰義東京大学教授「建築設備の新しい職域と職能」 秋元孝之東京芝浦工業大学教授（2018/2/26 予定） 【BS（ブレインストーミング）・グループ討議】 2 回実施
北海道支部 設備女子会	2016/11/24	3 回実施 年 1 ～ 3 回予定	【講演会】 深川市立病院がんサロン村上由記「知っておきたい乳がんのこと ～私らしく働き続けるために～」 【見学会】 札幌創世 1.1.1 区北 1 西 1 地区市街地再開発工事現場 【意見交換会】 1 回実施
東北支部 設備女子会	2017/8/31	1 回実施 年 1 ～ 3 回予定	【講演会】 次世代技術者のための講演会 ～活躍されている女性・若手技術者たち～ 1 回実施
北信越支部 設備女子会	2016/3/11	2 回実施 年 1 ～ 3 回予定	【講演会】 次世代技術者のための講演会 ～活躍されている女性・若手技術者たち～ 2 回実施 パネルディスカッション「建設産業、女性の視点から」1 回実施
中部支部 設備女子会	2016/6/6	5 回実施 年 1 ～ 3 回予定	【見学会】 大名古屋ビルヂング Biz プラザ名古屋 JR ゲートタワー
近畿支部 設備女子会	2013/10/15	5 回実施 年 1 ～ 3 回予定	【見学会】 OIT 梅田タワー 【講演会】 （株）東畑建築事務所 弓崎幸治「設備女子今昔」 （株）安井建築設計事務所 小林陽一「建築設備分野の女子に期待すること」
中国・四国 支部設備女子会	2015/12/8	7 回実施 年 1 ～ 3 回予定	【講演会】 次世代技術者のための講演会 ～活躍されている女性・若手技術者たち～ 3 回実施 【見学会】 （株）中電工安全実習棟 【出張教室】 広島大学、山口大学、岡山理科大学 【資格セミナー】 第 1 回 2018/1/17（予定） ※ 2016/11/4 四国支所設備女子会立ち上げ準備講演会
九州支部 設備女子会	2015/2/20	6 回実施 年 1 ～ 3 回予定	【見学会】 遠藤照明「省エネと快適性を両立する今後の照明提案」 東芝ライテック CO-LAB TOTO ミュージアム& TOTO 小倉第一工場 三菱電機冷熱システム製作所体感型展示場 airie SDLighting(株)・信号電材(株)・九州オーエム(株) 工場視察見学会 【研修会】 女性のためのキャリア研修 1 回実施
沖縄支所 設備女子会	2016/2/26	1 回実施 年 1 ～ 3 回予定	【講演会】 沖縄石油ガス（株）幸喜徳子「自己チャレンジ・女性パイロット、アメリカの空で」

す（図－２）。

- ④ 情報発信・ネットワーク全国拡大【国土交通省 2015 年度「もっと女性が活躍できる建設業」地域協働推進事業での採択案件「建築設備六団体協議会 設備女子支援ネットワーク」】
地域交流ネットワーク形成の推進を目的として

建築設備六団体協議会で上記事業に応募し、採択された事業です。ホームページづくりやアンケート報告書配布、既設各支部設備女子会でのイベント開催や新たな支部設備女子会の設立の後押しをすることができ、大いに弾みがつきました。

日建設計 設備設計部 宮坂 裕美子
JABMEE

設備女子会からのメッセージ④



私がこの仕事に就いたのは
パブルがはじけた直後の19
95年。「設備は採れない」「修士卒
は不要」と、設計事務所、ハ
ウスメーカーにあいさつし行
っても門前払いばかりの中、
唯一採用試験の機会を与えて
くれた設計事務所に、奇跡的
に入社できた。
それまで大きな苦労も挫折
もしたことがない私は、口の

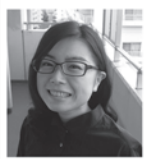
仕事も家庭も忙しく、充実

悪い周囲に悔しい思いをし
て、何處にいたとか。その
うち、社会人には「鈍感」
が重要と体感してきた。
そして、結婚、2回の育児
休暇を経て、仕事以外の大
事なこと・時間が大きく占
めてくる。その「鈍さ」
にも拍車がかかってきよう
だ。
今は幸ながら、仕事も
家庭も（苦労も多いけど）楽
しく忙しく充実している。
こんなに長く働いているとは
自分でも驚くばかりだが、と
りあえずまだ楽しいこの方
が多いから、しばらく仕事を
続けるか、皆様に感謝。

宮坂さん（2013/05/28 掲載）

三豊地所
ビル運営事業部 上田 早紀
JABMEE

設備女子会からのメッセージ⑤



設備女子になって15
年、人生の半分になった。
設計事務所に電気設備職
能として就職し、現在は
ディベロッパーに向かう中
である。男女の区別なく
伸びのびと経験を積むこ
とができる恵まれた環境

人の役に立つ仕事をする

は、感謝に尽きる。
そんな私の悩みといえば、自分の携わる建
築設備について上手く説明できないことだ。
そこで15年前を思い出し、みる。「人の役に
立つ仕事をしたい」と、10代の直感は明確な
理想を見つけていた。おこがましいようなこ
の言葉、自信をもって言えるよう努力しなけ
ればと思う。私を設備の世界に導いてくれた、
初心に恥じないように。

上田さん（2016/03/24 掲載）

図-1 日刊建設通信新聞社掲載「設備女子会からのメッセージ」

建築設備六団体協議会とは：公益社団法人空気調和・衛生工
学会，一般社団法人建築設備技術者協会，一般社団法人電気設
備学会，一般社団法人日本空調衛生工事業協会，一般社団法人
日本設備設計事務所協会連合会，一般社団法人日本電設工業協
会で構成されています。

⑤ 広報【ホームページ運営】

2016年2月に本オープンして以来，全国各地
のイベント開催情報や新聞掲載記事・報告書，寄
稿紹介，アンケート調査結果公表などの情報発信
の場を運営しています。「設備女子会」で検索で
きます（図-3，ホームページアドレス <https://www.setsubijoshi.jp/>）。

名称：「建築設備六団体協議会 設備女子支援
ネットワーク」

6. 2015「設備女子の働き方に関する アンケート」結果の概略

女性が活躍できる職場環境整備を推進するため
に，どのような現状と要望があるのかについて
2015年にアンケート調査を実施しました。働き
方の意識調査として「満足度」，「勤務制度」，「残
業対策」，「就業継続」，「ロールモデル」，「働き方
への意識」について尋ねています。

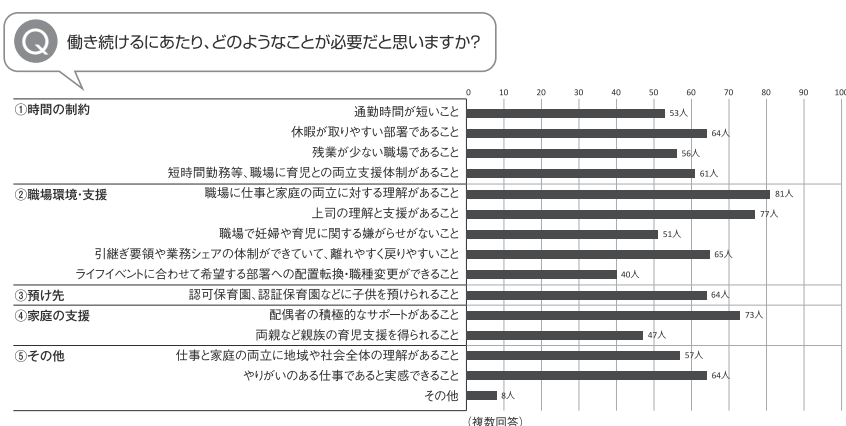
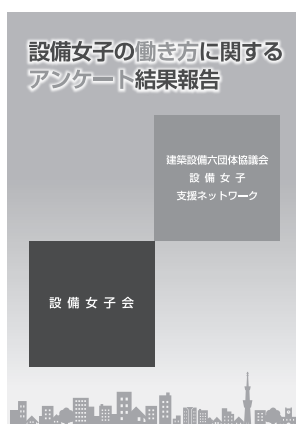


図-2 「設備女子の働き方に関するアンケート結果報告」（2015年11月発行）



図－３ 建築設備六団体協議会「設備女子支援ネットワーク」WEB サイトおよびQR コード

設備女子は20～30代の若い世代が多いのですが、仕事に充実感、やりがいを感じており、前向きに頑張ろうとしています。その一方で、働き続けることへの不安も抱えており、「仕事と家庭の両立に不安」をもっている女性は、回答者の8割近くにのぼります。

具体的な理由としては「時間の制約」が最も多く、残業や休日出勤、時間外の対応や会議など時間的な拘束に関するものが上位です。将来家庭や子供をもった時のことを考えると、ライフイベントがあった時にうまく対応できるのか、預け先問題と合わせ、周囲の理解は得られるのか、自分の職業人生・キャリアはこのまま進むことができるのか、という心配を生んでいます。それぞれの会社にはお手本となる先輩も少なく、道筋が見えにくいことも影響しています。

これらの解決方法として女性たちが望む「働き

続けるために必要なこと」は、概ね2点に集約されます。一つは、業務時間に関する制度的解決、もう一つは、意識改革です。

職場や業界全体で、残業を良しとする風潮をあらためていくことが望まれます。「時間外会議の禁止」など時間的拘束の改善に加え、「効果的な残業対策」を実施して建設業界の業務体質ともいえる「時間の制約」を取り除くこと、柔軟な時間休制度などの充実をはかることが、働き続けやすい環境となるでしょう。

そして、両輪として必要な意識改革は、仕事と家庭の両立に対する理解です。配偶者の家庭生活における協力や上司・同僚の理解と支援など、企業や地域全体での制度的な支援を実効的に進めるためには、男女どちらも家事や育児に携わるのは当たり前のこと、という社会全体の共通認識が必要だと考えます。

なお、アンケート結果で最も期待された対策は、「人事評価を、時間の長さではなく仕事の質で評価する」ことや「他の人が業務を替わる組織」でした。仕事人かつ家庭人である女性が、より効率的な働き方を志向し実践している自負が見えるとともに、仕事でもペア、家庭でもペアであることがリスク管理上も大事だということを実感していることが見えます。

7. 現在の会員構成と参加者の声

現在の入会者数約600名は全国各地に分布し、業種としては設計事務所・施工会社・メーカー・公益事業・不動産・ビル管理業・コンサルタント・官公庁等です（図－4）。

女性設備技術者各人が今感じていることは既出「設備女子会からのメッセージ」（HP）で全掲載分ご覧いただけますが、イベント参加者の声としては次のようなものが届いています。

- ・自社以外の人と交流がはかれ、人脈が広がり、世界観を広げる場として利用できる。
- ・自分と同年代の技術者や、同じように転職経験のある方と話ができて大変励みになった。

- ・仕事をしていて不安を抱える中で、大勢の先輩後輩と話すことで気持ちが楽になった。
- ・家庭や子育てを両立させながら日々楽しんで仕事をしている方と話ができ貴重な時間だった。

また、意見交換の中では、さらにさまざまな課題も浮かび上がっています。

- ・後工程となる設備業界はしわ寄せがきがちだが、現場改善が進んでいるケースもあり上流側への働きかけが課題であると感じた。
- ・外資系の方の話を聞き、日本独特の慣行以外の働き方もあるということを知った。
- ・男性と女性で物事のとらえ方、将来への向き合い方が違うので、異性の意見を聞く機会があったら良いと思う。
- ・管理職になると見えてくるものもあり、女性が発言の機会を多く得ることで全体の働き方改革につながる。
- ・まだ手探りも多いが、妊娠中や子育て中にどうモチベーションを保つことができるのか話を聞くことができた。人事制度が進んでいる企業の試みが大変参考になる。

8. 設備女子会の今後の展望

2016年4月には、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（略称：女性活躍推進法）も完全施行されました。社会全体における人々の働き方を問い直す動きや世界的な男女平等・機会均等の流れの中で、建設業の事情はありながらも、女性の活躍を進めるうえでハードルとなる環境を改善することが本格化している時流を感じます。設備女子会も協力や支援をしてくださる個人や企業が現れ大変心強いものがあります。

今後は、他団体女子会とのコラボレーションも含め、より組織立った発信力をもって活動を推進していく予定です。女性たちのはつらつとしたパワーを加えて働きやすい・働き続けられる職場環境をつくるための経験値を増やし、建築設備業界をますます活力に満ちたものにする一助としての役割を果たしていきたいと思っています。

建築設備士とは：建築設備士は、昭和60年（1985年）に建設大臣が定める資格として創設されて以来、建築設備に関する知識および技能を有する者として41,399名が誕生し、業務にあたっている。平成26年（2014年）の建築士法改正において、「建築設備士」という名称が法律に規定され、2,000㎡を超える建築物の設備設計について建築設備士の意見を聴くことが努力義務化されており、社会的な期待と課せられる責任は高まっている。

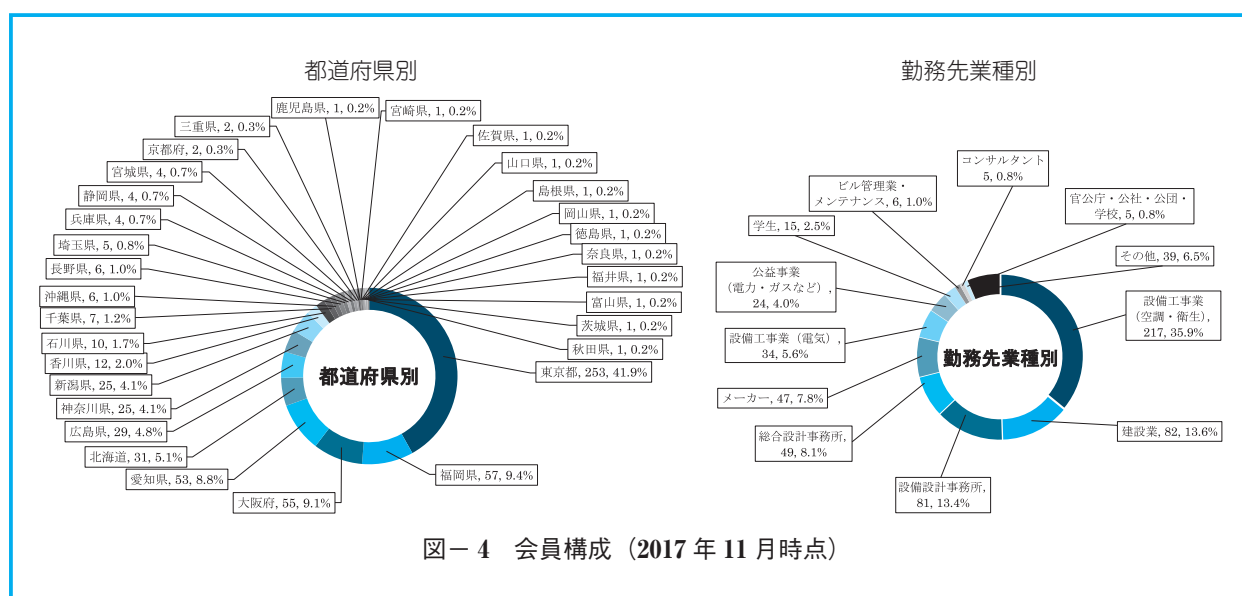


図4 会員構成 (2017年11月時点)